

温暖地に適した多収な水稲新品種「もちだわら」

米菓等、糯米を用いた製品の加工・生産においては、低価格原料米への要望が強く、極多収で、耐倒伏性に優れ、低コスト栽培が可能で、さらに飼料用米としても利用可能な品種の開発が期待されていました。農研機構作物研究所により、これらの目的にかなう糯で多収な新品種が育成されましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1. 新品種「もちだわら」は関東地方での出穂期は「おどろきもち」と同程度の“中生の早”、成熟期は「日本晴」より遅い“晩生の早”属し、玄米収量が高いため米菓などの加工用ばかりでなく飼料用米としての利用が期待できます。
2. 精玄米重は、「おどろきもち」に対して16%、「日本晴」に対して33%多収となり、耐倒伏性は、「おどろきもち」並の“極強”、穂発芽性は“難”と評価されています。
3. 餅の食味は「おどろきもち」より勝り、冷蔵後の餅の硬度は「おどろきもち」と同程度です。

「もちだわら」の特性 作物研 平成21年度成果情報より一部引用

栽培適地	関東以西の地域			
調査地・栽培条件	作物研究所(育成地)・早植多肥栽培			
調査年次	平成19~21年		平成19, 21年	
系統・品種名	関東糯243号 (もちだわら)	おどろきもち (対照)	関東糯243号 (もちだわら)	日本晴 (比較)
出穂期の早晩性	中生の早	中生の早	—	中生の晩
成熟期の早晩性	晩生の早	中生の晩	—	中生の晩
草型	極穂重	極穂重	—	偏穂数
出穂期(月・日)	8.11	8.08	8.13	8.17
成熟期(月・日)	10.05	9.26	10.06	9.27
稈長(cm)	90	77	89	92
穂長(cm)	25.7	25.3	25.0	19.6
穂数(本/m ²)	238	270	229	410
精玄米重(kg/a)	88.5	76.5	79.2	59.7
玄米重標準比(%)	116	100	133	100
玄米千粒重(g)	22.7	21	22.4	21.1
玄米品質	中下	中中	—	中上
食味(餅)	中中	中下	—	—
餅硬度(kg/cm ²)	12.6	11.7	—	—

注)玄米品質、食味は1(上上)から9(下下)までの9段階評価、餅硬度は山中式土壤硬度計で測定した数値。

☆ 活用面での留意点

栽培適地は関東以西です。いもち病の抵抗性の強弱はまだわかっていません。幼苗期に低温に遭遇すると退色がみられるため、育苗時の温度管理に注意してください。また、種子の休眠性が強いので、催芽前の浸漬を十分に行う必要があります。直播栽培は可能ですが、苗立ちが劣ることがありますので、落水して出芽を促すなどの栽培管理に注意する必要があります。

詳細については農研機構 作物研究所 低コスト稲育種研究チーム (TEL: 029-838-8536) にお問い合わせください。

(日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 矢島正晴)